

# O.S.P



{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

VOL.17  
April

無料

ご自由にお取りください

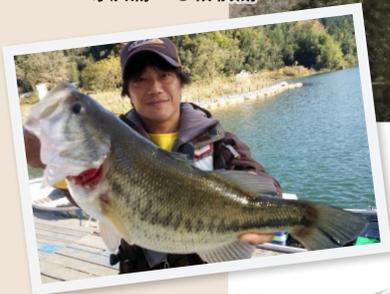
Keep it  
on the down low!!

—並木敏成が語る  
あのルアーの真実—  
～他に類を見ないO.S.Pルアーに  
搭載された構造の真実～

O.S.Pプロスタッフが  
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～寺沢庸二@相模湖～



O.S.P  
動画

... ▽ ...  
随時  
更新!!

二人の新顔プロスタッフが明かす必須ルアー

二羽の鶺鴒の眼

4月の河川の必須アイテムを二人のマスターが語る  
麻生雅之 / 近藤健太郎

The Kotaro's  
Maxims

上がりたてのバスを狙い撃つ  
シャローカバーのテキサス!!

並木敏成&O.S.Pの最新情報はこちら。

並木敏成 ↓

O.S.P ↓



# Journal

# THE KOTARO'S MAXIMS



いよいよ春近くなり、越冬から目覚めたバスがシャローに差す。バスにとって一大イベントと称しても過言ではないスポーニングに向けて冬の間に失った体力を補うべくフィーディングする個体も少なくない。しかも上がりたてのバスはコンディションがよく、何よりデカイのが魅力。そんなビッグバスと対峙できる興奮必至のカバーゲームを、試さない手はない。ここではドライブクロー3インチのテキサスリグに的を絞りカバーの見極め方やバイトを誘発するアクション、さらには小技も交えてご紹介。春のビッグバスを攻略する最有力なパターンとして、ぜひフィールドで実践してほしい。

上がりたてのバスを  
狙い撃つ  
シャローカバーの  
テキサス!!

スリ抜けのよさはテンポのよさにつながる  
だから春のカバー撃ちにテキサスリグを選ぶ

寒くして厳しい冬を終え、ようやく春が到来。これまでディープで冬を越すことに徹していたバスも、水温の上昇とともにシャローを目指し、カバーに身を潜めて捕食することが考えられる。そんなときに出番となるのが、スリ抜けに優れたテキサスリグだ。

気づかせる派手系と食わせる透明系

「カラー選びについてですが、まずはバスに気づかせることを考えます。今回、多用したのは2017年の新色であるパンプキンベッパー。これに、ツメの先端だけワーム用のマーカーでチャートに色付けています。たったこれだけですが、よく動くツメの先が際立ったアピールしてくれるのです。もしここにバスがいるという確信が持てるのであれば、抱卵エビやカワエビなどの透けた色のほうが、経験上、スレたバスにも強く、しっかり食ってくれと感じています。」



抱卵エビ  
カワエビ  
ツメの先端をマーカーで色付けたパンプキンベッパー。淡い色だが、ひとたび水中に入ると動きと相まってツメのアピールが際立つ  
抱卵エビやカワエビといった透明感のある色は、バスを驚かせることなく、また違和感を与えずバイトに導くことができるカラー

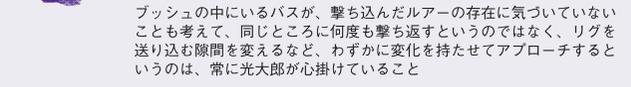
「ドライブクローには現在、2インチ、3インチ、4インチ、そして5インチと4サイズがラインナップされています。経験上、カスミ水系おかつぱりでのヒットルアーは3~3.5インチ程度で、ボリュームがあるもの。そのサイズ感に当てはまるのがドライブクロー3インチなのです。水が濁っている中で、3インチと短いですが太くてアピールがあって水を押す。これがよく釣れる理由のひとつでしょう。より目立たせてアピールしたいときは4インチ。おかつぱりよりプレッシャーが低いボートでは、4インチも3インチと同じくらいよく使います。2インチはサイトフィッシングや、冬のダウンショットで多用します。5インチはカスミ水系のおかつぱりに限ると、あまり出番はないかな」



カスミ水系のおかつぱりで考えたとき、光太郎がメインで使用するドライブクローは3インチ。コンパクトながら濁った中でも水を押し、しっかりアピールする力を持っているのがその理由

「カバー撃ちと聞くとジグやスナッグレスネコリグなども思い浮かびますが、やはりテキサスリグのスリ抜けのよさは一番です。枝が複雑に入り組むブッシュカバーなら、なおさら。早春のうちは、ブッシュカバーにいるバスの数は少ない。しかし、いるやつはやる気があり、勝負が早いテキサスリグがぴったり。バスがスレてきたらスナッグレスネコリグ、スキッピングを多用しないと入らないヘビーカバーはジグですが、ピックアップ時の抜けのよさや、ドライブクローならフォールでも確実に誘ってくれる。そういった点を鑑みると、やはりテキサスリグですね」と川村光太郎。  
これで誰よりも「エグい」攻めに徹し、この時期ならではのビッグバスを手中に収めてほしい。

「カバーの隙間でも、同じところに角度を変えて落とすからといって、それまで食わなかったバスが食うことはあまりないけれど、例えばブッシュの幹を挟んで右と左で食うことはあります。例えばブッシュの枝がバスの視界を遮っていたり、濁りで見えていなかったり、少しでも離れたところまで食いに行く活性がなかったり…なので、同じところに何度も打ち返すことは基本的にはしませんが、わずかに撃つ場所を変えて細かく撃っていくことは常に心掛けています」



ブッシュの中にあるバスが、撃ち込んだルアーの存在に気づいていないことも考えて、同じところに何度も撃ち返すというのではなく、リグを送り込む隙間を変えるなど、わずかに変化を持たせてアプローチするのは、常に光太郎が心掛けていること

「状況に応じて、04シンクロやドライブクローラーのスナッグレスネコリグを入れることもあります。04シンクロは中層を自然な水平姿勢で誘えるメリットを活かして、中層シェイクを多用。気づかせるのではなく、自然に食ってくれる色を選ぶことが重要です。スナッグレスネコリグはどこでも使うし、食わせにも長ける。どちらにせよ、テキサスリグほど太いラインを使えないのと、スリ抜けは劣りますよね。とにかく、そのときどきに応じてリグを使い分け、撃ち残しのないように攻め切ってください」



ドライブクローのテキサスリグを主軸に据え、その日そのときの状況に応じて、さまざまなリグを試し、春ならではのビッグバスをぜひキャッチしてほしい

複雑に枝が入り込むブッシュこそ、おかつぱりで!

「バンクにあるブッシュをポートから攻めようとする、どうしても攻めきれない部分が出てきてしまう。例えば沖に張り出したカバーであれば、その先端は撃ててもバンク側に残る根の部分までをチェックすることは難しい。枝が折り重なって入る複雑なカバーになればなるほど、攻め残しが出てきてしまう。そんなカバーこそ、おかつぱりの利点を生かします。地に足をつけて細かいところまで丁寧に撃てる。わずかな隙間に的確にリグを送り込めるのは、おかつぱりの最大のメリットですね」



沖に張り出しているものや、杭などの複合要素があるカバーは期待できる。そういったカバーを重点的に撃っていくことが重要  
人がリグを入れたこの位置に光太郎は「エグい攻め」に徹することが、カバー撃ちで差がつく釣果を生み出すキモ

「カバーに入れたあと、まずはボトムまでフリーフォール。このとき、各パーツがそれぞれ異なる動きを発生して誘います。次に、ブッシュ内では枝の直下にサスペンドしていることもあるのでリフト&フォール。でこぼこした(もしくは高低差のある)護岸が水中に続いていたり、ゴロタ石のボトムでは、その隙間にリグが入り込んでしまっていくらアクションをつけてもバスにアピールすることが難しい。そんなときもリフト&フォールでリグを浮かせる。まるでボトムから急に出てきたエサのような演出をしてやるのです。中層の枝も絡めて誘ってやるのもいいですね」



ゴロタ石やボトムの凹凸の隙間から、ドライブクローが急に飛び出してくるといった動きでリアクションを誘発。ボトムに着底したらリフト&フォールで誘ってみるといい  
イラスト=マッシュモロッシ  
このような護岸では、着底するとブロック状のボトムの隙間にリグが隠れてしまうため、リフト&フォールでその存在をしっかりアピール。底から急に出てきたエサを演出してやるのだ

すり抜けと倒れ込みを両立するセッティング

「テキサスリグでは、基本的にシンカーstopperを装着します。stopperはシンカーに密着させたほうがスリ抜け性能は上がるのですが、これだと着底したときのドライブクローがゆっくり倒れ込むようなアクションを損なってしまう。スリ抜けと倒れ込み、これを両立させるためには、stopperとシンカーの間を2~3mm程度、離してやるといい。マット状のカバーではstopperを密着させるので、これはカバーの密度によって、こまめに変えるといいでしょう」



ボトムで、シンカーが着底したあとにワームがゆっくり倒れ込む動きを出したいのであれば、stopperは密着させないこと。密なマットカバーではびったり、オープンウォーターでは20cmほど離して漂わせる、という使い分けが光太郎流

「ドライブクローはその特徴であるツメが、フォール時にロールをとまなうスイングアクションをすることでバイトを誘います。これはスイミングにおいてもしかり。例えばリグを横に引けるスペースがあるようなスペースがあるカバーでは、ロッドをスワットと持ち上げてスイミングさせます。浮かせて、横方向に探ってやるんです。このときもツメが水を受けてパタパタと動き、足はビリビリとハイビッチに震え、ヒゲもふわふわとしたアクションを生みます。ロッドを軽く揺すりながらのスイミングでも、水を大きく動かすのですが、これも非常に効果的!!」



写真のようなカバーでは、スイミングで写エック。ロッドを持ち上げるだけのスイミングでも、ドライブクローの各パーツがそれぞれしっかり動いてバイトを誘発。スイミングを止めた瞬間のカーブが、オールのまた、バスの本能を刺激する魅惑のアクションを生む

広めのスポットに撃ち込んだ後はスイミング



item タイニーブリッツDR(リアルギル)

ボトムの変化に当たった瞬間のバイトに注意!

こんにちは、遠賀川でガイドや、プロショップ「RODMAN」を経営しているチャーリー近藤です。最近、遠賀川の実環境変化として、護岸工事が行われたことによって氾濫することが少なくなってきております。これは地域住民にとって非常にありがたいことです。その影響で、ここ数年マディリバーだった遠賀川の水質は、クリアに近づいています。それにとともに、これまではチャート系が圧倒的に釣れる遠賀川でしたが、リアル系のカラーのヒット率が上がってきています。また、波動の強い中型から大型クランクよりも、小型のクランクの方に釣果の軍配はあがっているような気がします。4月を前提に考えると、出しどころは水深1mぐらいのハンブで、リップラップ(石)が絡んでいるとベスト。基本的には巻くだけでOKなのですが、キモは石に当てながら引くこと。このとき、スタックしそうなればリトリブを止めて、浮かせてかわします。要は、ボトムの変化をナメるように引くことです。石などに当たった瞬間のバイトに注意!



タイニーブリッツDR (リアルギル)

このコーナーでは、O.S.P.が誇るプロスタッフ陣が自身のホームレイクのシーズンパターンをもとにこの時期に欠かせないアイテムとその使い方を解説。ぜひ参考にしてほしい。

4月の河川の必須アイテムを二人のマスターが語る

タックルは巻き物に特化したベイトフィネスモデルのロッドとベイトフィネス専用リールにフロロの7lbがバランス的にマッチ。ちなみに私はSTEEZ・Lightning IIとT3エアのシャッドチューンを使用しています。数を狙うならハイカットなどのシャッドもいいですが、よりコンディションのいい一匹を狙うには「タイニーブリッツDR・リアルギル」の波動とカラーが圧倒的におすすめです。より詳しく知りたい方はぜひ、RODMANへお越しください!!



item ハイビッチャーマックス1/2oz・DW ヴィヴィットパールホワイト

水深の半分より上の層+変化が食わせのキモ

O.S.P.開発スタッフでありTBCに参戦しているAPこと麻生です。さて、「4月の河川」といってもさまざまですが、一言でいうならば「浮いている魚を狙う」スタイルがビッグバスへの近道だと思えます。この魚を獲るルアーとして最適なのが、私の場合はスピナーベイトやジャークベイト、ジグが挙げられ、特に手返し面を鑑みるとスピナーベイトが◎。数あるスピナーベイトの中でも「幅広い状況に対応できて、安心して使える」点が最大の特徴です。キャスト時に回転しにくいとか、手元に伝わる絶妙なバイブレーション感、ビッグバスを掛けたときでも安心できる



ハイビッチャーマックス1/2oz・DW ヴィヴィットパールホワイト

ワイヤーの耐久性や、硬いあごも貫通できる鋭いハリ先と線縁を備えたフックなど、細かいことを言うときキリがありません。スカートの色はホワイト系が私の好みですが、特に春先は雪解け水で濁っていたり、深場にいたバスが上がりがたてなんてことも多々あるので、基本的に目立つ色でOKです。

で、肝心の使い方ですが目安として次の2点を心がけてみてください。①そのフィールドの水深の半分よりも上層をミディアムリトリブで巻く。②そのレンジに、倒木や沈船、橋脚や沈みコンクリートなどちょっとした変化があるところで巻く。そうすれば、この時期にしか会えない素敵なプロポーションのプリスポーンバスをキャッチできるはず!! ◎推奨タックル/ベイトロッド:6.6ftのMHパワー(レギュラーテーパー)・ベイトリール:ギア比6.3:1クラス・ライン:フロロ14lb



釣り業界でも釣りはやっぱり趣味なのです。

息子が生まれて1年。家族3人で釣りに行くよう、父ちゃんは全力でがんばります!!

- ①家族サービスを第一優先↓自分の欲求を満たす前に家族を優先しましょう。家族の欲求が満たされなければ釣りに行くはずありません。
- ②嫁が寝てからが勝負↓情報収集や釣りの準備をする時間を、私の場合は嫁と息子が寝てから1時間とるようになっています。これで1回の釣りの内容を少し濃くすることができまよ。
- ③家族とフィッシング!!これはまだ実践できてはいないのですが、意外にもこれで奥様やお子様がハマってしまいうパターンが私のまわりでは多いようです。私の場合は湖の周辺のオシャレなカフェなどに家族を連れて行くことで、少しずつではありますが、家族が釣りに触れる時間を増やしている最中です。

みなさん、こんにちは。O.S.P.社員の曾我真也です。

私は昨年、入社したばかりの1年生。釣りとO.S.P.が大好きすぎて気がついたら履歴書を...そんな私にも家庭があります。O.S.P.に入社する前はなかなか釣りに時間を使えませんでした。今では釣りが立派なお仕事になりました!!それを嫁に説明したところ、釣りは趣味...結局のところ思うほど釣りに行けません。なので業界人として世間のお父さんアングラーとまったく同じ状況です。そんな中、少しでも私が釣りに行けるように日々心がけている工夫を3つ、ご紹介したいと思います。(※各ご家庭の奥様により個性差があります。)

あなたなら、どうする?どうしてる? 全国のオ父さんアングラー様。釣りに行きたくても、自由に行くこと、かえりませぬよな?それは釣り業界人として同じ。だから釣りに行く前には必ず、こんなことをしているのです...

PRESENT!

event@o-s-p.net



応募方法\_希望者はメールにて、件名「O.S.P. JOURNAL プレゼント係」とし、以下の項目にお答えください。

04シンクロ5g & 03ハンツストロング3.5g を3名に!!

- ①\_このパンフレットをどちらのお店で手にしましたか
- ②\_このパンフレットの率直な感想
- ③\_このパンフレットに求める情報
- ④\_釣り歴とホームグラウンド
- ⑤\_O.S.P.で好きなルアー

以上5点の回答に加え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、ご応募ください。締切は2017年4月25日(火)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

個人情報について\_ご提供いただきました個人情報厳重に管理し、賞品の抽選、発送および当選者への連絡に使用します。また、提供者の同意なしに業務委託先以外の第三者に開示・提供することはございません。(法令等により開示を求められた場合を除く)

オリキンの

ブレードジグのお手軽改造



いつもいつもぶったぎって、繋げてというような大改造をしているわけではありません。ちょっとだけ手を加えるのも賢い改造であります。今回はブレードジグ。このチャター系は枝系のカバーに弱いことが難点。枝を越えたときにヘッドが回り込み、刺さってしまうのです。そこで着目したのがブレードジグのヘッドにあるシリコンカバーの穴。そこへステンレス線を刺し、少し後ろに曲げます。これだけで枝を越えたときのひっくり返りを遅くでき、根掛かりを軽減。フックポイントを覆わないのでフッキングも問題なし! お手軽ですよ!!



ヒミツの 小部屋

# KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの秘密  
並木敏成が語るあのルアーの真実と  
ということ

Theme  
他に類を見ないO.S.Pルアーに搭載された構造  
このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

## それまでになかった 発想や構造が 革新的な釣獲能力を もたらした

今回は、並木敏成がどういう着眼点を持ってルアーを作ってきたのか、という点についてふれたいと思う。特に、ここで書くのはそれまでになかった業界初の発想や構造についてである。すでにご承知おきの内容も含まれているかもしれないが、今一度、ご一読いただきたい。では、各製品が発売された順に、ご紹介していこう。



前編

### Hard Lure 編

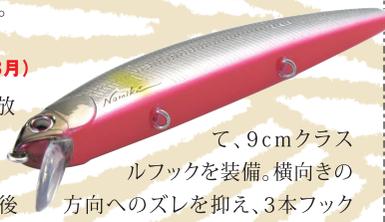
#### バジクラック (2000年7月)

5cmという全長で2本のトリプルフック(#6)をいかに絡ませないか。そして泳ぎやフッキング率を考え、かつ3つのフックポイントを左右均等に配するという点に着目。そのためにフロントフックはサーフェスリグに、リアフックは横向きアイを採用した。幅広いリトリブスピードに対応し、今なお根強い人気を誇るサーフェスクラックだ。



#### アシュラ925 (2001年3月)

圧倒的なフラッシングを加え、9cmクラスボディながら3本のトリプルフックを装備。横向きアイにすることでフックの前後方向へのズレを抑え、3本フック仕様を可能にしたのだ。



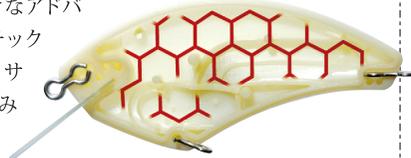
#### ダンク48SP (2002年4月)

細身のシャッドボディながら、急角度で潜っていく潜行能力とロングキャスト性能を両立。立ち気味の姿勢とロングリップは、スローリトリブ性能と根掛かり回避能力にも優れる。これはすべてのダンクシリーズにいえることである。



#### HPFクラック (2003年7月)

ハニカムスーパーHPボディ(PAT.)を採用した初号機。これによって同じ強度であることを前提としたとき、大幅な軽量化に貢献。ただ巻き系のアクションに大きなアドバンテージとなる。プラスチックボディのプラグにおいて、サーキットボードリップを組み合わせた1号機でもある。



#### コバジン (2003年9月)

最高のキャストビリティを生むためのウェイトを背負わせながらも、水面をキープする浮上性を持たせるために、耳のようなウェイクスポイラーを搭載した。軽くすれば水面をキープすることはたやすいが、

飛距離が落ちたり、高速巻きでは水面を割ることも。そんなストレスを解消したのがウェイクスポイラーだ。



#### ブリッツ (2004年7月)

浮力、投げやすさ、そしてスナッグレス性能を兼ね備え、なおかつフラッシングや強い波動を生み出すセミフラット形状のボディ。さらにハニカムスーパーHPボディ(PAT.)とボディ下部のワンウェイトによる低重心化で、動きに抜群のキレを持たせた。



#### アシュラO.S.P.ルドラ130SP (2005年5月)

比類なきローリングアクションを極めるため、板状のウェイトをボディに這わせるように設置。また業界初の3連、しかもタングステン球による“トリプルタングステン重心移動システム”の効果と相まって低重心化されたと同時に、抜群の飛距離も確保した。ただ巻き時のローリングアクション、トゥイッチ時のダート性能、アクション時に発するフラッシング、そして飛距離を併せ持った究極のミノープラグである。



#### ヤマトO.S.P. (2006年10月)

センターボードおよびフロントとサイドのカップ。このすべてで首振り時に一般的なポップ音とは比較にならない捕食音(大音量)を発生する、というコンセプトのもとで開発。センターボードはクイックな



ターンにも一役買っている(前に流れようとする動きのブレーキとなり、一定範囲内でより多くの首振りを実現)。

#### ブリッツMAX DR (2009年8月)

ロングリップで、特にボディが大きいクラックベイトほど、重心移動はデフォルトとなっている。しかしあえて固定重心にすることで、アクションレスポンスやスナッグレス性能の向上、さらにはスタックした際の外しやすさに貢献。それでいて飛距離を損なわないのは、O.S.P.クオリティである。



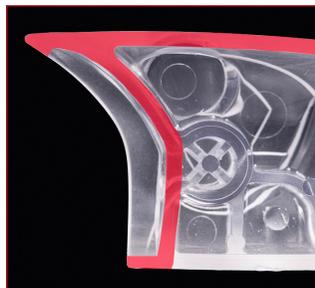
#### アシュラO.S.P.ヴァルナ110SP (2015年2月)

ルドラ同様、11cmミノーで初のトリプルタングステン重心移動システムを採用した。何より、黄金比。たとえばプラスチック製のクラックベイトなら5cm台、ミノーなら11cm台が最も素材との相性がよく、泳ぎに優れたものを作りやすいという比率のことだが、それゆえのベストパフォーマンスを発揮してくれる。



#### ラウダー70 (2016年8月)

カップ径が大きすぎないため、ベイトフィッシュフォルムをキープ。カップのアップパー部を突出させ、立ち気味の浮き姿勢にしたことで、ボディサイズ以上のポップ音を奏で、スプラッシュを生み出す。これら機構は空気抵抗を減らし、飛距離の延伸にもつながった。



### Wire Bait & Jig 編

#### タイフーン (2002年10月)

スピナーベイトタイプのビッグベイトという、新たなジャンルを構築。#7や#10といった大きなブレードを装着しているにもかかわらず、軽快な引き心地とスナッグレス性能で幅広い状況をカバーする。なぜか、レギュラーサイズのバスもよく釣れる。



#### ハイピッチャー (2004年10月)

ボディサイズの変わらないシステムクランクのように、ウェイトが重くなってもアームやブレード、フックサイズを変えることがない、システムスピナーベイトとして作り上げた。アームに配したビーズは、その色の違いでウェイトを瞬時に判断できるようにした。



#### O.S.P.ジグゼロワン (2006年9月)

前方だけでなく、サイドからの根掛かりもおさえるために、楕円の穴にガードを差し込むオーバルガードを採用した。またガードの本数をウェイトがアップすると増えるようにしたことで、均一のガード力を全ウェイトでキープ。これはすべてのO.S.P.ジグに言えることである。



#### O.S.P.バズ02ビート (2007年10月)

アルミ製のクラッカーしかなかった時代に、プラスチック製のクラッカーをはじめ採用。これにより音量、および音質が飛躍的にアップ。結果、抜群の集魚力を生み出した。またクラッカーは直進安定性にも貢献している。



#### O.S.P.ブレードジグ (2011年4月)

ブレードジグカテゴリーといえば金属製のブレードという常識の中で、タフコン時やクリアウォーターでバイトを得るためのクリア樹脂ブレードを搭載。ブレードおよびヘッドのアイに自由度を持たせ、スムーズなフォール姿勢を保ちつつ、絶妙な千鳥アクションを生み出させることにも成功した。



to be continued...

# Field Guide

首都圏から1時間圏内とアクセスがよく、ビッグバスも現実的とあって非常に人気のフィールド。その人気の高さゆえプレッシャーも高く、攻略は一筋縄ではいかないというもまた事実。そんな関東屈指のメジャーレイクを、ここでガイドも行っている寺沢庸二が詳しく解説する。

### 案内人はこの人

寺沢庸二  
トーナメント歴は非常に長く、相模湖や津久井湖では常に上位に名を連ねる実力派。シーズン終盤に合わせたディープからシャローまで、幅広いテクニックを持つ確実なバスをキャッチ。シャローカバーを繊細に攻めるパワーフィネスは、自身が最も得意とするスタイル。ガイドの詳細はこちら→<http://terasawayouji.com/>



〈相模湖おすすめルアー①〉  
**ヴァルナ(フローティング)**  
広く探る際に使用するジャークベイト。文字どおりジャークを入れながら、カバーなどでは浮かせてかわす。バスがどのレンジにいるのかを探りたいという点でもフローティングモデルをチョイス

〈相模湖おすすめルアー②〉  
**ハイクットSP**  
ヴァルナよりもやや深いレンジで出番となるシャッド。ヴァルナがやや表層に近いレンジなに対し、ハイクットはブレイクエッジを狙う。基本的にはただ巻きで、フラットにつながるブレイクなどを手返しよく探る

桂川橋を越えると右手の岩盤に、この先はエンジンの使用を禁止する看板がある。ルールは厳守!

6月発売予定のデロドワームでキャッチした1800gクラスのビッグバス。気難しい春先のバスもためらうことなく口にすると、このワームのポテンシャルには寺沢も驚きを隠せなかった。乞う、ご期待!!

〈相模湖おすすめルアー③〉  
**オーバーリアル63ウェイク**  
オリキプロデュースの新アイテム。ワカサギなどの小魚をビジュアルだけでなく、動きまでも完全再現。この手のルアーを見飽きている、スレたバスをも一撃で食わせる力を持っている



12 揚沢  
入口の岬は冬でも実績が高いスポットで、ここからこの先にあるフラットやレイダウンをクルーズ。そして最終的にスポーニングに入るというエリア

13 秋山川  
4月であれば秋山橋までを集中的に。右側の岩盤はワカサギの遡上ルート。左側は竹や柳のブッシュになっており、どちらも見逃さない。ブッシュや、フラットの沈み物はジャークベイトで、岩盤のストレッチは見えバスをサイトで攻略、というのがここでの王道

14 弁天橋まわり  
レイダウンあり、クリークあり、そしてカバーやフラットと、多彩な表情を持つエリア。過去には、ロクマルクラスの見えバスも。バスはカバーを利用して、水温の上昇とともにシャローに差す。日中はニュートラルになっていることが多く、カバーに入ったタイミングやスクールのバスは比較的食わせやすい

15 大曲  
桂川で上流を目指すバスは、必ずここを通る。見てわかるように大きな流れの変化が生じ、インサイド、アウトサイドともに可能性がある。桂川では午前と午後で流れが変わるため、タイミングを変えて入り直すことをおすすめする。ワカサギの寄り具合もチェック

16 境ワンド  
このバスは回遊性が強く人的プレッシャーも高いため、いないときはもぬけの殻。したがって簡単に見切らず、ここも入り直すことがキモ。入口右の竹のカバーは満水時にはシェルターのようにバスが守られるため、ウエッピングで撃つ! 対岸にはゴージャスなカバーがいくつもあつたため、こちらもチェックをお忘れなく。この橋より上流はエンジンの使用が禁止されている

17 島田湖  
南側には2つのインレットを擁しており、カバーも豊富(①)。バスだけでなく、ほかのサカナも多く賑やか。スポーニングを控えたコンディションのいいバスが、カバーに差していることも珍しくない。正面に見える島状の地形もスポーニングエリアで(②)、いいバスが入っている。インサイドの岩盤はワカサギのコースになっており(③)、点在する崩落跡やインレットなどをクルーズする個体をいかに獲るかが攻略のカギを握る

18 奥の沢  
ここもワカサギが差すインレットで、それを捕食するバスの姿が見えることも。少ないカバーも撃ち続けられているため、年々パワーが落ちているのは否めない

19 貝沢  
3つのワンドの中で、最も流量があるインレットを持つ。かつ、メインチャンネルの流れも当たり、一発ビッグバスが期待できるスポットだ。入口右にある竹のカバーも有望で、ここもビッグバスの実績が高い

20 ねん坂  
本湖下流部の大規模なワンド。この中にいくつも小規模なワンドがあり、これらを総称して「ねん坂」と呼んでいる。それぞれのワンドに上がってくるバスがターゲット。最奥にはキャンプ場があり、進入および釣りは禁止になっているので注意

1 日相園前  
桂川の沖にある小さな島から日蓮大橋の旧橋跡。そして茶色いマンションの前までがフラットになっている。この沖はブレイクを介して深く入り、かつ秋山川のインターセクションにもなっているバスのストックはシーズンを通して多い。さまざまなレンジを探ることができるので、まずはフィールドコンディションを把握するためにここからスタート

2 沢井ワンド  
ワカサギが産卵のために、本湖から遡上してくるエリア。春先に実績が高く、2006年3月に開催された東京チャプターでは、寺沢が4505gのレイクレードで優勝したスポット。当時は浅くてサンドバーがあったのだが、いまは浚渫された地形が変わっている。ワンドの奥に滝がある。別称:吉野ワンド

3 艇庫前  
バンク側のフラットは、シャローに上がってきたバスがウロウロはじめて、最終的にはブッシュの中に入る。スポーニングエリアのひとつで、ブッシュ以外は沈船や点在する岩などにもつく(※写真は冬水位のもの。3月5日より増水し、4月には満水になるので注意)

4 勝瀬橋周辺  
橋脚にあるオイルフェンスは水中深くまで幕が入っており、それに沿ってバスが上下動する。浚渫の掘り残しや水中岬など地形の変化もあり、ここもバスのストックは多い。ポトルネック状態で流れの変わりがあり、対岸側の岩盤はワカサギの遡上コースとなっているのも見逃さない

5 一二三前  
相模湖のみならず、今や一般的となったパワーフィネススタイル。テキサスリグやラバージグを見慣れたカバー内のバスに、小さなシルエットのベイトをPEラインで打ち込んで食わせて獲るといったスタイル

6 小寒沢  
ここから連なる3つのワンドは、基本的に同じ条件。北岸のワカサギが春になると、ワンドの奥のインレットに差す。これを捕食するバスがターゲット。小寒沢はこの3つのワンドの中で最もカバーが豊富

7 奥の沢  
ここもワカサギが差すインレットで、それを捕食するバスの姿が見えることも。少ないカバーも撃ち続けられているため、年々パワーが落ちているのは否めない

8 貝沢  
3つのワンドの中で、最も流量があるインレットを持つ。かつ、メインチャンネルの流れも当たり、一発ビッグバスが期待できるスポットだ。入口右にある竹のカバーも有望で、ここもビッグバスの実績が高い

9 一号区  
シャローにカバーがあつたり、レイダウンが入っていたりと、バスがつく要素が豊富なエリア。このあたりを「一号区」と呼ぶ。広く深く流しながら、バスの反応を探っていくといい

10 ねん坂  
本湖下流部の大規模なワンド。この中にいくつも小規模なワンドがあり、これらを総称して「ねん坂」と呼んでいる。それぞれのワンドに上がってくるバスがターゲット。最奥にはキャンプ場があり、進入および釣りは禁止になっているので注意

11 日相園  
多彩なポートでバスアングラーを迎えてくれるレンタルポート店。免許不要艇をはじめとする各種ポートは3,500円～。日相園が主催するトーナメントも行われている。また湖面を望むコテージも人気。日中はポート、夜はコテージで気の合う仲間と楽しむのもいいのでは? 詳細はこちら→<http://www.nissouen.com/>

12 揚沢  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

13 秋山川入口  
産卵を終えて弱ったワカサギが、水面近くに浮いているのが見える。こういった小魚をバスは捕食している

14 弁天橋周辺  
オーバーライドは春でも欠かせないアイテム。表層から順に探って反応がないとき、深場のチェックで使用

15 大曲  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

16 境ワンド  
ここから連なる3つのワンドは、基本的に同じ条件。北岸のワカサギが春になると、ワンドの奥のインレットに差す。これを捕食するバスがターゲット。小寒沢はこの3つのワンドの中で最もカバーが豊富

17 島田湖  
南側には2つのインレットを擁しており、カバーも豊富(①)。バスだけでなく、ほかのサカナも多く賑やか。スポーニングを控えたコンディションのいいバスが、カバーに差していることも珍しくない。正面に見える島状の地形もスポーニングエリアで(②)、いいバスが入っている。インサイドの岩盤はワカサギのコースになっており(③)、点在する崩落跡やインレットなどをクルーズする個体をいかに獲るかが攻略のカギを握る

18 奥の沢  
ここもワカサギが差すインレットで、それを捕食するバスの姿が見えることも。少ないカバーも撃ち続けられているため、年々パワーが落ちているのは否めない

19 貝沢  
3つのワンドの中で、最も流量があるインレットを持つ。かつ、メインチャンネルの流れも当たり、一発ビッグバスが期待できるスポットだ。入口右にある竹のカバーも有望で、ここもビッグバスの実績が高い

20 ねん坂  
本湖下流部の大規模なワンド。この中にいくつも小規模なワンドがあり、これらを総称して「ねん坂」と呼んでいる。それぞれのワンドに上がってくるバスがターゲット。最奥にはキャンプ場があり、進入および釣りは禁止になっているので注意

21 日相園  
多彩なポートでバスアングラーを迎えてくれるレンタルポート店。免許不要艇をはじめとする各種ポートは3,500円～。日相園が主催するトーナメントも行われている。また湖面を望むコテージも人気。日中はポート、夜はコテージで気の合う仲間と楽しむのもいいのでは? 詳細はこちら→<http://www.nissouen.com/>

22 揚沢  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

23 秋山川入口  
産卵を終えて弱ったワカサギが、水面近くに浮いているのが見える。こういった小魚をバスは捕食している

24 弁天橋周辺  
オーバーライドは春でも欠かせないアイテム。表層から順に探って反応がないとき、深場のチェックで使用

25 大曲  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

26 境ワンド  
ここから連なる3つのワンドは、基本的に同じ条件。北岸のワカサギが春になると、ワンドの奥のインレットに差す。これを捕食するバスがターゲット。小寒沢はこの3つのワンドの中で最もカバーが豊富

27 島田湖  
南側には2つのインレットを擁しており、カバーも豊富(①)。バスだけでなく、ほかのサカナも多く賑やか。スポーニングを控えたコンディションのいいバスが、カバーに差していることも珍しくない。正面に見える島状の地形もスポーニングエリアで(②)、いいバスが入っている。インサイドの岩盤はワカサギのコースになっており(③)、点在する崩落跡やインレットなどをクルーズする個体をいかに獲るかが攻略のカギを握る

28 奥の沢  
ここもワカサギが差すインレットで、それを捕食するバスの姿が見えることも。少ないカバーも撃ち続けられているため、年々パワーが落ちているのは否めない

29 貝沢  
3つのワンドの中で、最も流量があるインレットを持つ。かつ、メインチャンネルの流れも当たり、一発ビッグバスが期待できるスポットだ。入口右にある竹のカバーも有望で、ここもビッグバスの実績が高い

30 ねん坂  
本湖下流部の大規模なワンド。この中にいくつも小規模なワンドがあり、これらを総称して「ねん坂」と呼んでいる。それぞれのワンドに上がってくるバスがターゲット。最奥にはキャンプ場があり、進入および釣りは禁止になっているので注意

31 日相園  
多彩なポートでバスアングラーを迎えてくれるレンタルポート店。免許不要艇をはじめとする各種ポートは3,500円～。日相園が主催するトーナメントも行われている。また湖面を望むコテージも人気。日中はポート、夜はコテージで気の合う仲間と楽しむのもいいのでは? 詳細はこちら→<http://www.nissouen.com/>

32 揚沢  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

33 秋山川入口  
産卵を終えて弱ったワカサギが、水面近くに浮いているのが見える。こういった小魚をバスは捕食している

34 弁天橋周辺  
オーバーライドは春でも欠かせないアイテム。表層から順に探って反応がないとき、深場のチェックで使用

35 大曲  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

36 境ワンド  
ここから連なる3つのワンドは、基本的に同じ条件。北岸のワカサギが春になると、ワンドの奥のインレットに差す。これを捕食するバスがターゲット。小寒沢はこの3つのワンドの中で最もカバーが豊富

37 島田湖  
南側には2つのインレットを擁しており、カバーも豊富(①)。バスだけでなく、ほかのサカナも多く賑やか。スポーニングを控えたコンディションのいいバスが、カバーに差していることも珍しくない。正面に見える島状の地形もスポーニングエリアで(②)、いいバスが入っている。インサイドの岩盤はワカサギのコースになっており(③)、点在する崩落跡やインレットなどをクルーズする個体をいかに獲るかが攻略のカギを握る

38 奥の沢  
ここもワカサギが差すインレットで、それを捕食するバスの姿が見えることも。少ないカバーも撃ち続けられているため、年々パワーが落ちているのは否めない

39 貝沢  
3つのワンドの中で、最も流量があるインレットを持つ。かつ、メインチャンネルの流れも当たり、一発ビッグバスが期待できるスポットだ。入口右にある竹のカバーも有望で、ここもビッグバスの実績が高い

40 ねん坂  
本湖下流部の大規模なワンド。この中にいくつも小規模なワンドがあり、これらを総称して「ねん坂」と呼んでいる。それぞれのワンドに上がってくるバスがターゲット。最奥にはキャンプ場があり、進入および釣りは禁止になっているので注意

41 日相園  
多彩なポートでバスアングラーを迎えてくれるレンタルポート店。免許不要艇をはじめとする各種ポートは3,500円～。日相園が主催するトーナメントも行われている。また湖面を望むコテージも人気。日中はポート、夜はコテージで気の合う仲間と楽しむのもいいのでは? 詳細はこちら→<http://www.nissouen.com/>

42 揚沢  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

43 秋山川入口  
産卵を終えて弱ったワカサギが、水面近くに浮いているのが見える。こういった小魚をバスは捕食している

44 弁天橋周辺  
オーバーライドは春でも欠かせないアイテム。表層から順に探って反応がないとき、深場のチェックで使用

45 大曲  
低水温期のイメージが強いメタルバイブだが、春でもまだまだ出番はある。むしろ、サマーパターンのディープ攻略でも登板機会はあるという。使い方はオーソドックスなリフト&フォール。リフト幅をバスのコンディションに合わせてやるのがキモ。寺沢のフェイスリフトはアユカラ

46 境ワンド  
ここから連なる3つのワンドは、基本的に同じ条件。北岸のワカサギが春になると、ワンドの奥のインレットに差す。これを捕食するバスがターゲット。小寒沢はこの3つのワンドの中で最もカバーが豊富

## スポーニングを控えた個体の動きをしっかりと把握することがカギ

水温の上昇につれてさまざまなサカナが活性化。もちろんバスの動きも活発になり、来るべきスポーニングに向けて準備を開始する時期だ。ちなみに寺沢いわく、昨年は4月20日の大潮で第一陣が入ったとのこと。この事実からもわかるように、4月の相模湖はスポーニングを大前提としたバスの動きをいかに的確に把握できるかが、釣果のカギを握ると言えるだろう。

とはいえ、決して簡単ではないのもまた事実。3~4月にこの湖で行われるトーナメントはローウエイト戦になることも珍しくなく、50人の参加者中、ウエインしたの一人という試合もあるほど。早い個体は産気づいており、上がり立てバスは捕食モード。ひと言でいうと「つかみづらい」のが4月の相模湖なのである。「冬からの釣れ出しは上流のほうが早いけれど、本湖も可能性があるのがこの時期です。あらゆる釣りを試してみましよう」



つかみづらい反面、釣れればデカイのが魅力!

### パワーフィネスの有効性

寺沢がパワーフィネスで使用するのが03ハンツと04シンクロ(写真)。ラバーの太さによる水押しの違いで、これらを使い分けしている

これまで、カバーに潜むバスに対して有効だったテキサスリグやラバージグは、今では当たり前となりそれで食う個体も少なくなってきた。そんなクレーバー化した個体に対抗する手段として編み出されたのがパワーフィネスだ。スモールシルエットのものをPEラインとの組み合わせで複雑なカバーに撃ち込み、食わせて、確実に獲る。寺沢が得意とする、相模湖でも外せないスタイルである。寺沢は04シンクロの3.5g、5gと03ハンツの3.5gおよび5gを水深とカバーの密度で使い分けしている

トレーラーはドライブクロ-2インチがメイン

